

SPARC Japan セミナー2019 特別編

「オープンアクセスの今とこれから～ステークホルダーの戦略とともに考える～」

OAの推進に向けたJPCOARの活動について

江川 和子

(東京大学附属図書館 / オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) /
学術情報流通推進委員会委員)

講演要旨



オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) は、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的として、2016年7月に設立された団体である。設立から3年目となる本年3月、機関リポジトリをめぐる国内外の状況を踏まえて「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021年度」を策定し、5つの戦略に基づく活動を開始している。具体的な活動の1例としては、コンテンツ収集の効果的な方法を検討するため、全国17大学のリポジトリ業務担当者に対するインタビュー調査を実施した。



江川 和子

1989年東京大学附属図書館に入職。筑波大学附属図書館、国立情報学研究所学術基盤推進部等を経て2019年より東京大学附属図書館事務部長。2016年、機関リポジトリ推進委員会委員としてJPCOAR (オープンアクセスリポジトリ推進協会) の設立に関わる。2019年より同運営委員会委員長。

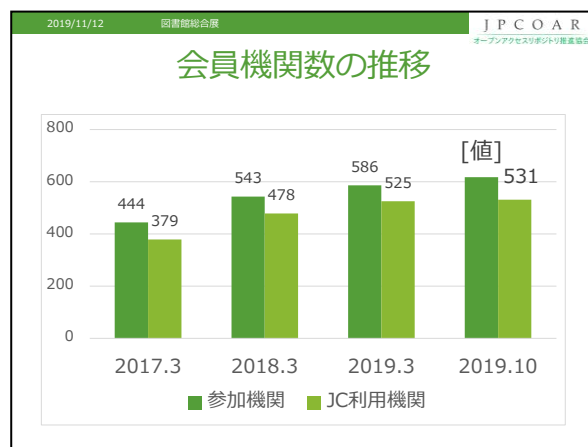
私はこの4月からJPCOARの運営委員会の委員長を務めています。この会場で午前中のコマをお聞きになった方もいらっしゃるかと思いますが、大学における研究データ管理について、図書館にもっと積極的に前に出てほしいということで、盛んにJPCOARという名前が出てきたと思います。そのJPCOARの活動について少しご紹介したいと思います。

JPCOAR とは

JPCOARは、日本語ではオープンアクセスリポジトリ推進協会と申します。リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、わが国のオープンアクセスならびにオープン

サイエンスに資することを目的として2016年7月に設立された団体です。

図1のように、少しずつ会員が増えてきており、最



(図1)

新の2019年10月の数字では617の機関に参加していただいています。JC利用機関のJCとは、JAIRO Cloud 共有リポジトリシステムです。JPCOARではJAIRO CloudをNIIと共同運用する形を取っており、JAIRO Cloudをご利用になる方には必ずJPCOARに入ってください。それが現在531機関となっています。617との差分は、JAIRO Cloudは使っていないけれどもJPCOARの活動の目的に賛同して入っている機関になります。

会員機関の内訳は図2のようになっています。元々図書館を母体としてつくられた機関なので、国公私立大学、大学共同利用機関等の図書館が主要な会員となっていますが、その他、研究開発法人のような大きなところや、美術館、博物館など、非常に多様な機関に参加していただいています。

日本で機関リポジトリを公開している機関の74%がJAIRO Cloud利用機関です。当初は自前でつくっているところが多かったのですが、現在ではその7割以上がJAIRO Cloudを利用するようになり、かつJPCOARの会員となっています。

設立の経緯～2018年度までの活動

2016年当時は、機関リポジトリを中心とするさまざまなコミュニティがありました。DRFや、コミュニティとは言いにくいのですが機関リポジトリ推進委員会というものが活動していました。JPCOARは、それらを再編・統合して、日本の大学図書館を中心とし

種別	機関数	加入率 (%)	未加入機関数	総数*1	JC利用機関
国立大学	76	88.4	10	86	44
公立大学	65	69.9	28	93	57
私立大学	385	63.8	218	603	350
大学共同利用機関	12	64.7 ^{*2)}	6	17	11
短期大学	41	12.4	290	331	39
高等専門学校	8	14.0	49	57	8
その他(研究機関等)	30	- ^{*3)}	-	-	25
合計	617	48.9	601	1,187	534

2019.11/12 図書館総会議 JPCOAR
オープンアクセスリポジトリ推進委員会

2019.10.4現在

*1) 典拠：平成30年度学校基本調査結果の概要
*2) 大学共同利用機関数の加入率に、機構本部は含まない(1機構本部参加分を除く)
*3) その他(研究機関等)は、加入率に含めない
・国公私立大学全体の加入率：67.3%
・機関リポジトリを公開する機関の74%がJC利用機関
・会員機関の87%がJAIRO Cloudを利用

(図2)

てもう少し大きな新しいコミュニティを設立しようということで、2016年に設立されました。その後は、DRFや機関リポジトリ推進委員会が中心を担ってきた新任担当者の研修を引き継ぐ、OA方針の策定ガイド・リンク集等を作る、また、新しい活動としては、国の政策である統合イノベーション戦略についての見解を発するなどしてきました。

ただ、この2年間は、走り始めてしまったものの、なかなか中長期的な戦略が立てられませんでした。ようやく昨年度、2019年から2021年についてのオープンアクセスリポジトリ戦略を策定し、現在はこれに基づいて活動を行っています。

オープンアクセスリポジトリ戦略2019～2021年度

最初のビジョンは、元々の設立の趣意とそれほど大きくは変わっていませんが、リポジトリによる知の発信システムの構築をしてオープンアクセスならびにオープンサイエンスに寄与していくということを掲げています。

具体的には五つの戦略を立てました。やはり今、リポジトリを使って何をするかというと、最初に来るのがオープンサイエンスということで、1番目にオープンサイエンスの推進を掲げています。2番目に、当然、論文を中心としたオープンアクセスも引き続き推進していき、コンテンツの流通、活用を促進していくことを挙げています。3番目がコミュニティの機能の強化、4番目が人材育成です。JPCOARという組織の強みがあるとすれば、全国の大学図書館を中心とした非常に大きなコミュニティを持っていることだと思います。

それを図にしたのが図3です。1番上にリポジトリを通じた知の発信システム構築を旗として掲げて、それを成し遂げるための重要な二つがオープンアクセスとオープンサイエンスです。元々はオープンアクセスを中心としてきましたが、その上に乗っかる形のオープンサイエンスが今後さらに膨らんでいくと思います。

それを支えるものとして、コミュニティの強化と人材育成があり、これらを進めていくためにはそもそもこの協会の活動基盤を強化していかなければいけないということです。

2019年度活動計画

この戦略に基づいて2019年度の活動計画を策定し、現在取り組んでいるところです。

それぞれ担当の作業部会をつくっており、まず、オープンサイエンスの推進については研究データ作業部会が活動しています。大学図書館を中心として、特に若手と中堅の職員の人たちが関わって実際の活動を行っています。取り組みの一つは、データベースのレスキュープロジェクトの実施です。研究者がつくって、そのまま放置されてしまっているようなデータベースをレスキューするプロジェクトを始めています。2番目に、NIIと共同して、新学習管理システムによる研究データ管理に関するオンライン講座の試験運用を、20以上の会員機関に参加していただいで進めています。3番目として、若手研究者向けの研究データ管理に関する教材の作成も行っています。

また、今日の話に一番関連するオープンアクセスに関しては、コンテンツ流通促進作業部会を立てて活動しています。JAIRO Cloud 開発に資する情報提供については、新JAIRO Cloudのデータ移行実験等に15機関に参加していただいでいます。それから、コンテンツ収集の効果的な方法を検討するため、統計分析等に

よって現状を調査するということでは、17機関に対してインタビューを行って調査をしています。

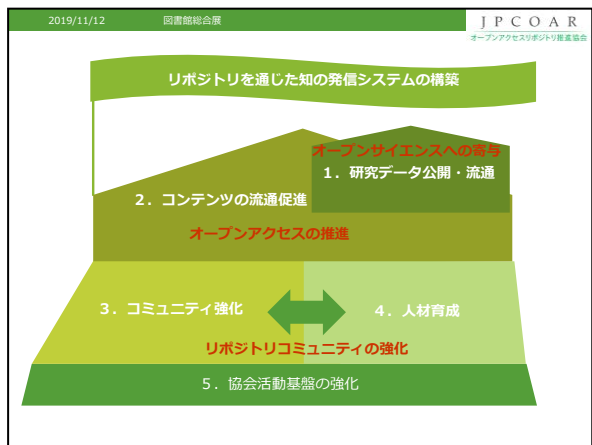
また、コミュニティ強化・支援では、地域に出ている、活動成果普及やグッドプラクティスの紹介をするようなイベントも考えています。

さらに人材育成については、一番大きいのは新任担当者研修です。受講者は1回につき50人ぐらいで、今年は2回、多いときですと3、4回行うのですが、毎回すぐに定員に達してしまいます。リポジトリの担当者が毎年替わるので、いつまでも新任研修の需要があるのだと感じています。これについては研修体系の再構成も、現在の学術情報流通の変化に合わせて考えていこうと思っています。

最後に、運営委員会としても、協会の活動基盤を強化していきたいと思っています。

コンテンツ収集方法の調査

最後に作業部会の具体的な活動の一つを紹介します。コンテンツ流通促進作業部会は、コンテンツ収集の効果的な方法を検討するためのインタビュー調査を行いました。これについては11月14日(木)のJPCOARのフォーラムで発表する予定です(図4)。ポスターセッションもありますので、お立ち寄りいただければ幸いです。



(図3)

図4は、コンテンツ収集に関するポスターセッションの告知です。11月14日(木)10:00~第5会場「始めなければ始まらないーJPCOARオープンアクセスリポジトリ戦略の幕開けー」を開催します。また、ポスターセッション12「オープンアクセスを支えるコンテンツ流通: JPCOARにおけるJAIRO Cloud, SCPJ, メタデータ、コンテンツ収集の取り組み」も開催されます。

(図4)